

(ますますゲーム本編に)救済なんてあらへんで！絶対に笑ってはいけないグリフィン正規軍監査24時

伊勢村誠三

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

某月某日。HK416、G11、UMP9、M4 SOPMODII、

RO635は呼び出された先でM16にこう告げられた。

「私達が味わった地獄をお前らにも味わつてもらおうと、前回お前らがやつてた役を全部私らが引き継いでやるつて訳だ！」

唯一2年目のUMP9の抗議を無視して次々と送り込まれるグリフィンが誇る笑いの刺客たち。果たして5人は無事に帰れるのか？そして画面の前のあなたは本編と矛盾どころの騒ぎじやないというツッコミを抑えて読み切ることが出来るのか？

前作を読んだ方が楽しめます。生暖かい目で見守ってください。

目 次

オープニング	1
バスにて その1	6
指揮官に挨拶	11
待機室にて	16
悪夢は引き出しからやつて来る	21
最後ノ引出	30
鬼ごっこ開始	35
グラウンドにて	40
お昼ご飯	46
引き出しの奥	51
お色直し	55
締めはやっぱりこれだらう	62

オープニング

とある司令部に404小隊の3人は呼び出された。

UMP9「珍しいね。45姉抜きで任務なんて。」

G11「めんどくさいよ！」

416「文句言わないの。さっさと済ませて帰るわよ。」

扉を開けて中に入る。そこに居たのは

RO「あら、あなた達は」

SOPMOD「久しぶりー！」

G11「A.R小隊の生き残りコンビじやん。」

416「あの時以来ね。あなた達も呼ばれて？」

RO「はい。そろそろ指揮官が来るはずなのですが…」

???「残念ながらそれは無いな！」

UMP9「な、何？」

G11「誰？」

416「そのムカつく声は…M16！」

M16「大正解だ！」

〈謎の女 M16A1〉

RO「な、何故あなたが？」

M16「それはズバリお前たちに借りを返すためさ。」

SOPMOD「かり？」

M16「忘れもしない去年の地獄！絶対に笑ってはいけないグリ
フィン指揮官養成所24時のはな！」

5人「!」

UMP9「いや待つてよ。」

M16「私達が味わった地獄をお前らにも味わつてもらおうと、前
回お前らがやつてた役を全部私らが引き継いでやるって訳だ！」

UMP9「ねえM16ちょっと待つてよ！」

M16「なんだよナイン？」

UMP9「私は!!？」

M16「固定で方正枠だよ。」

4人「ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」

ＵＭＰ９「なんで!? おかしいだろ! おかしいよね? 普通私そつちだよね!」

M 1 6 「はいはい無駄口はいいから早く着替える。

今年のテーマはグリフィンがお前ら正規軍の監査を受けるって事になつてゐるんだ。お前らが更衣室から出て来た瞬間に笑つてはいけないスタートだから。」

いつの間にか用意されていた更衣室に押し込まれる5人。

M 1 6 「よし、終わつたかな? まずはR O!

お前だ!」

R O「はい!」

〈ストール印のメガホン正規軍人〉

M 1 6 「まあまあ様になつてるじや無いか。

次、SOPMOD

SOPMOD「はい!」

〈敵の部品を外して来る獵犬正規軍人〉

M 1 6 「ちよつとサイズでかいがまあ、平氣か。

次、G 1 1

G 1 1 「いやだあ…。」

〈ラムレーザンで動く遅刻魔正規軍人〉

M 1 6 「ははｗ似合つてねえ。次ナイン!」

ＵＭＰ９「……。」

〈死んだ目と貫禄の2年目正規軍人〉

M 1 6 「教科書に載せたいぐらい見事な死んだ目だな。最後、41⁶!」

4 1 6 「アンタこの企画終わつたら覚えてなさいよ!」

〈例によつて1人だけロリスキン〉

M 1 6 「似合つてるじやないか。飴ちゃんいるか?」

4 1 6 「いるか!」

笑つてはいけない スタート

M 1 6 「早速出発、といきたいがまづは上官に挨拶をしてからだ

な。
」

M16に続いて行く5人の足取りは重い。

G11 「マジでやるのぉ?」

SOPMOD 「これはこれで面白いかもね！」

選いわねSOPMOD

416 「ま、ビンタとお色直し無いかと思えば気が楽よ。」

うか？」

そういう言ひてゐるうちに到着

監査に連れて行く5人を連れてきました】

416 「あれ私達の指揮官じゃない。」

○ 111 一九〇八年もイリイリがよ

正規軍の上級指揮官

捕獲官一派がせりんにはこれがこのアリスの監査を行つても良

もし、いざとなつた時、直ぐに戻つてこられるよう、特殊コードを発

行する

指置宮「三〇六一五」

指揮官 - HODGSON

P. 6 - 1

新編 実業大字典

卷之三

「う、ムツ！ ムの部屋を見失してぬ！」

指揮官

卷之三

「う前の寺殊コトギは…クリスマスツリーギ!!」

S
C
P
W
C
「
リ
よ
」
か
い
！
—

「なんですか、

RO
—なんでSOPMODはそんなに普通なんですか！

指揮官「G
r
G
1
1」

G 1 1 「はい。」

指揮官「お前の特殊コードは…真顔ラムレーズンだ！」

サレーリッシュン「JMR」

UMP9 「いつた！」

G11 「そんなこつだらうとは思つてたよ…。」

U
M
P
9

指揮官「お前の特殊コードは…2年目だ！」

UMP9 「好きでやつてないよー・好きでここにいないよー」

416
いた!

S O P M O D 「アーラ！」

RO 「痛い！」

指揮官「そして最後に416！」

指揮官 「お前の特殊コードは… M-4だ！」

5人「」

416 「貴様⋮」

「不味、つ取り押せ」

416 「離せ A R 小隊の力スビもが！ 殺す！」 いつだけは今ここで

殺す！」

M16 「さ、挨拶も済んだし早く行くぞ。もうバス来てるからなー。」

こうして波乱の幕開けとなつた第二回笑つてはいけない。グリ
フインが誇る笑いの刺客達が襲いかかる。

バスにて その1

5人はバスに乗り込んだ。

M 1 6 「なにシケた面してるんだよ。まだ始まつたばつかだぞ？」

4 1 6 「だからこそ先が思いやられるじゃないの。」

G 1 1 「バスん中で寝てていい?」

S O P M O D 「駄目！」

R O 「1人だけ逃すとでも?」

目的地に向かい動き出すバス。しばらくして

U M P 9 「止まつた?」

G 1 1 「うわ誰か乗つてきたよ?」

R O 「また凄い面子ですね。」

5 7 「今日ね！サンタさん来るんだって！」

ネゲヴ「ねー！」

U M P 4 5 「うん……。」

♪プレゼントを貰える良い子達 Five seven ネゲヴ U
M P 4 5 (3人ともロリスキニン)♪

4 1 6 「これオンエア年末だつけ？」

R O 「12／25には1週間遅れだし1／6には1週間早いです
ね。」

G 1 1 「てかサンタだれ？」

R F B 「良い子のみんなー！ゲーマーサンタさんだよー！」

♪ゲーマーサンタ A m R F B (X m a s スキン)♪

4 1 6 「あんたかよ！」

R F B 「皆欲しいプレゼントは何かなー？」

ネゲヴ「本場日本の屋台のお祭り！」

※日本は滅んでます。

4 1 6 「うわあ……。」

U M P 9 「これは……。」

R F B 「え、えっとお、あなたは？」

5 7 「野生のキウイちゃん！」

※キウイ鳥 学名：Apteryx ニュージーランドの国鳥。
これが野生で残つてゐる様な自然がドルフロ世界線にあるはず無い。

G 1 1 「絶対無理じやん。」

R F B 「う、うう…45ちゃんは？」

4 5 「……。」

泣きながら40の遺影を見せる。

S O P M O D 「あれって、お姉ちゃん？」

R O 「ええ、多分。」

G 1 1 「笑うに笑えないね。」

R F B （ど、どうしよう？ 私プレゼントゲーム力セツトしか用意してないよ！）

4 1 6 「なんかめつちや汗かいてるわね。」

U M P 9 「まあ、あればどれも実現不可能」

U M P 4 5 「よん…まる？ 40！ 40なのね！」

U M P 4 0 「……フツ」

（前回に引き続き蝶野桦 U M P 4 0）

ナレーシヨン「H K 4 1 6、G 1 1、R O 6 3 5、M 4 S O P M O

D II アウト！

4 1 6 「痛ーい！」

G 1 1 「いつたあ！」

R O 「きやあ！」

S O P M O D 「痛！」

U M P 4 0 「聞いた所によるところの辺りにクリスマスに1週間も遅れた挙句、子供達にプレゼントを渡さない馬鹿サンタがいるらしい。お前か？」

RFB 「え、あ、あの」

U M P 4 0 「質問に答えろ！」

RFB 「待つて待つて違います私じやないです！」

UMP40
—じやあ誰だ!—

RFB
—あいつです！」

ナインに濡れ衣を着せるケーラー・サンタ

U
M
E
G
—
!

卷之三

おのこの持てる写真力詰捌てて

「（）の道景を描て」

卷之三

卷之三

2
八

ナノリショノ「HK416」
G11
アウト!

4
1
6
—
八
つ
七
!

G
1
1

U
M
P
4
0

U
M
P
9
「え、
いや」

UMP40 「いいから立て

U
M
P
9 「わ、分かつた！分か

無理矢理立たされるナイン

UMP40 「おい、 そこのチビ供。」

ネゲヴ
—
はい。
—

57
—はい!

U M P 40 〔この写真の女はこいつだと思うか?〕

ネデヴ「間違、無、叶!」

J M P 9

J
M
○
4
0

一瞬で黙るナイン。大爆笑の4人。

※笑いましたが最後までお付き合いください。

U M P 4 0 「おいそこのガキ。」

416 — 私?

UMP40「こいつの様なサンタが許されるとと思うか？」

U
M
P
9
「ちよつと416

UMP40「おいSOPMOD」

SOPMOD「なに?」

UMP40「こいつを殺つていと思うか?」

S O P M O D — い い と も ～ !

UMP9 一二 この裏切り者供があー

RC！もう君しかいなーいんだ！助けて！お願ひしたから！」

二

J. M. P. R. O. ?

RO「スリ○一戦稼也仮面ラ○ダリも。プロキュアも何故敵に躊躇な

く刃を振るうか分かりますか?」

UMP9「こ、こんな時に何を?」

RO 「それは助けようが無いからです。

もう救えないと分かつたそれは元が同

し境遇の 広い目で見れば兄弟に躊躇無く必殺キックや 激殺ヒーローは
巨大ロボットの鉄拳をお見舞いできるのです。一

U
M
P
9
「だからなんの話を！」

RO「だからナインさん。骨は拾うから火の粉がかからないうちに大人しく死んでください。」

卷之三

U M P 9 「や、やめぶつ！」

制裁のビンタ炸裂!

ナレーション「H K 4 1 6、G 1 1、R O 6 3 5、M 4 S O P M O

D II アウト！」

H K 4 1 6 「痛つ！」

G 1 1 「痛い！」

S O P M O D 「うぎや！」

R O 「痛ーい！」

U M P 4 0、ちびっ子達にゲーマーサンタと共に退場。

U M P 9 「何で……こんなにはやく？まだ、なんの準備もなかつたのに？」

5人を乗せたバスは往く。まだ見ぬ笑いの資格達の元に……。

指揮官に挨拶

5人を乗せたバスは目的地へ辿り着いた。

M 1 6 「着いたぞー、ここが今日一日お前らが監査する事になるグリフィンHPー00地区中央司令部だ！」

U M P 9 「去年と同じ所じゃん！」

4 1 6 「最っ悪！」

G 1 1 「お家帰る……。」

R O 「人にした事って、自分に返つてくるんですね……。」

S O P M O D 「みんな暗いよ！ いつそ楽しむぐらいでやんないと身が持たないよ？」

4 1 6 「あんた程幸せな脳みそしてないのよ！」

M 1 6 「はいはい皆やる気満々で何よりだ。まずはこの指揮官に挨拶に行くぞ。くれぐれも無礼の無いようにな。」

4 1 6 「無礼の無い様について言つたつてこの企画が無礼講そのものみたいなもんじや無い。」

R O 「それ言っちゃいます？」

執務室まで来た。

M 1 6 「指揮官！ 正規軍から監査に来た者たちをお連れしました

！

????? 「入りなさい。」

△指揮官 ヘリアントス

4 1 6 「嘘でしよう！」

G 1 1 「最悪……」

S O P M O D 「あはははは！ サンシャインヘリアンだ！」

R O 「ちょっとS O P M O D！」

ナレーション「S O P M O D アウト！」

S O P M O D 「痛ーい！」

U M P 9 「……お互い、辛いですね。」

ヘリアントス「ああ……。」

M 1 6 「ほら寝坊助、挨拶。」

G11 「ええ？ えつと私は…」

ヘリアントス「必要ありません。

それぐらい調べています。G r G 11。その霸氣も愛想も無い死んだ様な真顔と着実に仕事を増やしていくことからお払い箱にされていく宛が無かつたところを404に拾われなかつたら路上でバツテリーが切れるのを待つだけだつたメイド人形の出来損ない。

十
一
二
三
四
五
六
七
八
九

—

SOPMOD「いつた！」

R.O.「ぐう！」

UMP9 痛い！

416 — クツ!

○ 11 一 めつせや 〔うねこの人!〕

ヘリアントス「あなたも知っていますよRC635
序きなライ○リは坂○ライダリW。准○は鳥海○告。

好きなライドは僕のライドを推しには鳴海の吉
決め台詞を使うから、こは好きなんやうね。彼らの言

RO 「…やそうゆうわけじや…」

ヘリアントス「好きな戦隊は炎神戦隊ゴ○オンジャ一。推しは江角

○輔。熱血ヤンチヤ系もいけるクチですか?」

別にニシキヒメにてモ

ヘリアントス「好きなプリ○ユアはドキドキ！○リキュア、推しはキュ○ハート。なんでもコスプレするぐらいには好きだそうで。」

R
O
!
—

SOPMOD — あ、RO?」

416 —まさかほんとな訳?』

ヘリアントス「実際の写真がこちら」

容赦なくノリノリでポーズを決めるR.Oの写真を取り出す

R
O
—やめてえええ！

ナレーション「G11
UMP9 SOPMOD アウト！」

RO 「酷い！ 酷いよお嫁に行けないよ！」（マジ泣き）

416 「痛い！」

SOP MOD 「ヤード」

G11
—いつた!

U
M
P
9
—痛
—！

ヘリアントス「あなたも笑ってる場合ではありませんよ」

ヘリアントス「妹のG28に忘れられたショツクで焼け酒した挙句に散々同僚への愚痴を垂れ流すなど、一度アルコールが入ればNGワードを言われた時より酷い暴れ用、挙げ句の果てにはAR小隊に絡んでる時の方が酒が入つてゐる時よりマシとか言われる始末。」

416 —う、うるさいわね！」

ヘリアントス「あなた花形小隊じやなくてコメティアンを目標して
るわけ? なんでも自分の服を引き裂いてハバネラを踊るギャグがあ
るそうじや無い?」

「ギャグ」や「おもしろい」という言葉

4
1
6
— キヤケジヤ無いわよ！

SOPMC—いた!

ヘリアントス「やりなさい。」

4
1
6
「はあ!
—

ヘリアントス「やりなさい、今！」で！』

G 1 1 「……マジでやんの私？」

UMP9 「ここでやらないとかしらけるな」

SOPMOD 「416のつ！ ちょっとイイトコ見てみたい！」

RO [.....] (メンタル大破)

416 「く、クツソ！」

脱いだ服をG11に預ける416

ヘリアントス「……そうね、折角だし他の4人に見せつける様にや
りなさい。」

416 「ツ！…ツツ！」

ハバネラを踊り出す416

SOPMOD 「痛い！」

G11 「あぐー！」

ヘリアントス「あなたも笑ってる場合じゃありませんよ」MP9を

UMP9 「わ、私も？」

ヘリアントス「あなたも確か『今日から君も家族だ!』って叫びながら殴りかかるギヤグがあるそうじやない?」

UMP9 「それ私じゃない！ それナインじやなくてセブン！」

G11 「いつた！」

SOPMC'D「うわやあ！」

ヘリコントス「やいなやい」

「ここがと 言われんばかりは自分の腹を指すハリカンントハ
JIMMY 「ええ? リアンさんマジですか?」

「リアンナ、叶えられた。」

「いいの?...じゃあ、きよ!今田から君も家族だ!」

緩めのパンチを浴びせるナイン。

SCHOOL OF LIBRARIES

RO 「…………」（メンタル大破）

三
ノ
一
二
三

ナレーション「G11 アウト!」

待機室にて

5人は待機室に案内された。

M 1 6 「さ、ここが今日一日お前らに使つてもらう待機室だ。諸々の準備が整うまでここで待つてもらう事になる。じゃ、ごゆっくり」

満身創痍のメンバー達、名札が付いている順に手前からS O P M O D、4 1 6、G 1 1、U M P 9、R O の順に座る。

4 1 6 「はあ……誰から行く？」

G 1 1 「何が？」

4 1 6 「何がじやなくて引き出しよ引き出し。」

U M P 9 「ここは1番後輩のR O からじやない？」

R O 「私ですか？」

S O P M O D 「早く、誰かがやらなきゃ始まんないよ？」

R O 「う……じゃあ、行きます！……横は三段ともない……真ん中は……うわ！」

〈謎の手紙二通とD V D〉

S O P M O D 「おお！」

U M P 9 「初っ端から攻めるね。」

G 1 1 「どつちからいく？」

R O 「じゃあ、こつちから。」

片方の手紙を開ける。

4 1 6 「なんか書いてあつた？」

R O 「指令書、G K チャンネル2を見る。」

G 1 1 「去年もあつたよねビデオの奴。」

U M P 9 「ゲームもあつたよね。」

4 1 6 「てことは席的にもアンタがA R — 1 5のポジション」

R O 「言わないで！……もう、覚悟してますから。」

半ば諦めた様な表情でT V をつけるR O

A R — 1 5『えー、番組の途中ですがここでニュース速報をお伝えします。』

新米キヤスター AR-15

G11 「ニュース速報？」

「誰かやらかしたのかしら？」

A R-15『今日未明、16ラボ前の交差点でペルシカ氏を2トントラックで轢き、（反逆）小隊のAN-94が逮捕されました。』

容疑者 A N — 9 4

A
R
—
1
5
「調べ
に 対して A
N
—
9
4
は
—
A
K
—
1
2
に
2
トント
ラックは異世界転生機で、疲れてる人をコンティニューサせるモノだと教わった。疲れる様だつたからペルシカさんを轢いた」と供述しております、警察は人類人権団体の巧妙な攻撃の線で捜査しています。」

ナレーション
U
M
P
9
G
1
1
S
O
P
M
O
D
アウト!」

「警察もバカなんですか？」

G11 「ふそつ！」

卷之三

A R — 1 5
『次のニュースです。』

416 —まだあるの?」

A.R.—15『本日朝7時ごろ、S—09地区の飲み屋街にて、反逆小隊のAK—12が民間人を発砲して二名を殺行犯逮捕されま

た。

416 ランタも捕まへてどうする!?

ナレーシヨン「R0G11

RO — きやあ！」

G
1
1
—
い
つ
た!
—

A R—I 5 「調べに対し「白髪の方のM 16に酒を飲されたから記憶がない」と容疑を否認しており、警察は傘ウイルスの可能性も視野に入れて捜査しています。」

「何鉄血を街に入れてるのよ！警備は何をしてたのよ！」

4人

ナレーション「RO G11 SOPMOD UMP9 アウト

!

R.O.—ぐう!

卷之三

U
M
P
9

A
R
—
1
5
『
！
た
つ

で裏切りの方のM16A1が逮捕されました!』

「うう、どうでもいいのも何やってるのよ！」

AR-15一調べに対しでM16は「RCの部屋に仕掛けでおいた盗撮力メラを取りに行きたかった。何も後悔していない」と供述しております、警察は猥褻物不法所持の疑いで捜査を進めています。』

「なんでそこまでナマトモなのよ!」

「しかもなんでも人の部屋に仕掛けてるんですか！」

2人

アレジアンス・ソシエティ
アーヴィング

G11
「ぐう！」

UMP9 「痛い！」

A R — 15 「ちなみにこちらがその盗撮カメラの映像です。」

卷之三

ユアハリ●があなたのドキドキ、取り戻してみせる!!

RO 「ああああああああああ!!!」

顔を真っ赤にしてうずくまるRO

一語が愛をなくしてゐて！

アウト

！」

R O 「曝された！全国に曝されたあ！」

G 1 1 「あ、愛を失くした4 1 6 w w いつた！」

S O P M O D 「痛ーい！」

U M P 9 「くううー！」

A R — 1 5 『以上、反逆ニュースでした。』

4 1 6 「アンタらが反逆してるのは常識だけよ！」

U M P 9 「ブフツ！」

ナレーション「U M P 9 アウト！」

U M P 9 「痛い！」

R O 「（顔を真っ赤にしたまま硬直）

4 1 6 「こいつ……動かないわね？」

G 1 1 「そりや動けないよ。あんだけの事があつたら。」

S O P M O D 「じゃあ次誰行く？」

U M P 9 「じゃあG 1 1 は？」

4 1 6 「いいわね。アンタ開けなさい。」

G 1 1 「ええ？ やだなあ……」

早速一段目の引き出しを開ける

G 1 1 「うわあああああ！！！」

4 1 6 「!? 何よいきなりひっくり返って。」

G 1 1 「あ、アレ……」

U M P 9 「一体何が…ヒツ！」

〈引き出しの中は鉄血の目玉がギッシリ〉

4 1 6 「キツモ！ 何これ？」

S O P M O D 「あ、私のコレクション！」

4 1 6 「アンタなんてもん集めてるのよ！」

S O P M O D 「いーでしょーー！これはハイエンドからくり抜いた奴
でさ！」

4 1 6 「G 1 1 他は!？」

G 1 1 「え、えっと他は…封筒?」

U M P 9 「中身は?」

G11 「中身は…ぶぶつ！はつはつはつ！」

ナレーション「G11 アウト！」

G 1 1 「ニギヤー」

UMP9「？」
一体何が？」

G
1
1
「いやだつて
W
W
W
W
W
W

^M
4
—A R—15 生きとつたんかワレ!』(イラスト 漫画●郎)』

カレーリング
—4116
G11
U
M
P9
SCP
MC
D
アベト

彼女らはまだ知つないんなのはまだ序の口だと云うことを

悪夢は引き出しからやつて来る

残る引き出しは416、UMP9、SOPMODとなつた。

416 「次、誰行く？」

UMP9 「じゃあ、私が。」

引き出しを開けるナイン

UMP9 「なんか手紙入つてた。」

G11 「他にはなんか無いの？」

UMP9 「なんかヘリウムガスみたいなのが。」

〈手紙とヘリウムガス（？）〉

SOPMOD 「手紙にはなんて？」

UMP9 「えっと、グリフィンタレコミ掲示板のを印刷したやつみ
たいナニナニ？」

シカゴタイプライター『なあ知つてるか？』

カー『何？』

シカゴタイプライター『HP—00地区基地の噂。』

春田『夜のビンタサングラスの噂ですか？』

コーラ『知つてる！正規軍の悪口言うとビンタされるつてやつで
しょ！』

UMP9 「…………」

416 「ドンマイ」

UMP9 「ちよつと！」

2人「wwwwwwwwwwwwww

ナレーション「SOPMOD G11 アウト！」

SOPMOD「痛い！」

G11「いつ！」

UMP9「もう來たじやん！一回出たじやん！」

416「……目を閉じて四肢の力を抜くといいらしいわよ。」

UMP9「死ぬ前提！」

G 1 1 「で、そつちのヘリウムみたいなのはなんなの？」

U M P 9 「さあ？まだわかんない。」

S O P M O D 「やつてみてよ！」

U M P 9 「すうくゴボツゴ！オエくつさ！」

4人「w w w w w w w w w w」

ナレーシヨン「4 1 6 G 1 1 S O P M O D R O アウト！」

〈ヘリウムの正体は激臭ガス〉

4 1 6 「いたつ！」

R O 「痛い！」

G 1 1 「くそ！」

S O P M O D 「いつた！」

U M P 9 「うう…すつごい鼻に残る！」

4 1 6 「たく、しようもない。さつさと次行くわよ。」

4 1 6 、自分の引き出しを開ける。

4 1 6 「これだけね。」

〈³0番のロツカ一の鍵〉

4 1 6 「中々大きいロツカ一ね。」

G 1 1 「中身なんだつた？」

U M P 9 「灰色の…ロツカ一？」

4 1 6 「違う。これ冷蔵庫ね。」

S O P M O D 「その中身は？」

4 1 6 「中は…はあ！？」

〈ジャックダニエルのボトル〉

G 1 1 「……フフツ」

ナレーション「G 1 1 アウト！」

G 1 1 「いつつ！」

4 1 6 「なんに使うつてのよ？」

U M P 9 「さあ？」

S O P M O D 「それより先にR O のD V Dと手紙を見ようよ！」

R O 「え？」

G 1 1 「そう言えば終わつてなかつたね。」

R O 「……くそつ」

4 1 6 「何ドサクサに紛れて逃げようとしてるのよ。」

U M P 9 「で、結局手紙にはなんて？」

R O 「指令書、ディスクをゲーム機に入れる。」

4 1 6 「それゲームだったのね。」

ディスクを備え付けのゲーム機に入る

T V 「電腦刑事！」

チュートリアル『名前を挿れて下さい。……「R O 6 3 5」さんで
よろしいですね？ それでは、ゲームの世界へ！』

恙無くゲームを進めるR O

私『私の名前は「R O 6 3 5」 警視庁電腦捜査課7係、通称ネット
係の刑事だ。』

G 1 1 「グラフィックは綺麗だね。」

S O P M O D 「半分実写？」

4 1 6 「みたいね」

私『今日未明、S N S 上である女子大生殺害を仄めかす投稿がされ、
その投稿の通りに遺体が発見された。』

U M P 9 「凶悪事件だね！」

4 1 6 「やばいじゃない。」

私『我らネット係の出番だ。 電腦刑事の名にかけて必ず犯人を捕ま
えて見せる！』

??? 「誰が捕まえるつてオラエー！」

(b g m C r a s h ↴ 戰慄 ↴)

U M P 9 「うわああああああああああ！！！」

いきなり机の下に避難するナイン。

4 1 6 「あ、アンタいきなりどうしたのよ！」

U M P 9 「だつて来るもん！ 4 0 が来るもん！ この音楽かかつたら
絶対来るもん！」

R O 「落ち着いて！ ただのゲームの中の話だから！」

U M P 9 「げ、ゲーム？」

私『あ、貴女は！ 4 0 課長！』

〈登場キャラクター UMP40課長〉

UMP9「はあ？なんだよ40課長って！紛らわしいんだよ！」

4人「ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」

ナレーション「G11 RO SOPMOD 416 アウト！」

416「痛い！」

G11「くつ！」

SOPMOD「いつた！」

RO「きやあ！」

40課長『そう言つてお前が犯人を捕まえた事があつたか？』

私『い、いや…』

40課長『あつたか!!!』

私『ない！ないです！ありませんでした！』

40課長『素直でよろしい。そこでお前に今日から、相棒がつく事になつた。』

RO「相棒？」

40課長『入れ！』

????『はい！』

AR—15『AR—15です！よろしくお願ひします先輩！』

〈新米警官 ST AR—15〉

416「アンタも何回出て来るのよ？」

40課長『今日からコイツと捜査をして貰う。さあ！まずは捜査会議だ！』

画面が切り替わり会議室に

40課長『それでは捜査会議を始める。MDR！』

〈捜査官 MDR〉

MDR『被害者はAN—94さん21歳。S—09地区在住の女子大生。』

〈被害者 AN—94〉

UMP9「さつき捕まつてなかつたつけ？」

416「深く考えたら負けよ。』

MDR『現場となつた地下駐車場に争つた形跡は無く、背後から心

臓を脇差の様な刃物で一突きで絶命させられていきました。』

40課長『死亡推定時刻は?』

M D R『S N S上で犯行声明があつた時間帯と一致します。』

40課長『ガイシャに何かトラブルとかは?』

S O P M O D『ガイシャって?』

M D R『特には、話を聞く限りあまり自分から積極的に物事に関わるタイプではなかつた様です。友人も数えるほどしか居ませんし、サークルやバイトもしてませんから、そつち方面でホシを絞るのは難しいかと。』

S O P M O D「ホシって?」

G 1 1 「犯人のこと。」

4 1 6 「意外と詳しいわね。」

G 1 1 「ドラマで覚えた。」(どやつ!)

A R 1 5 「先輩、先輩。」

私『何?』

A R 1 5 『じゃあガイシャはホシと無関係だつたんでしょうか?』

私『だつたらガイシャが無抵抗な事に説明がつかないよ。』

A R 1 5 『あ、そうでしたすいません。』

40課長『ならそこはネット係のデコとボコに頼むしかないか。なら残りは…』

テキパキと割り振りを決めていく40課長。

40課長『わかってると思うが目撃情報の賞味期限は短い!丁寧に徹底的に調べて調べ尽くせ!』

一同『はい!』

40課長『良し!解散!』

2人も自分達の割り振られたエリアに向かつた。

A R 1 5 『それで、これから何をするんですか?』

私『被害者の携帯端末の解析だよ。』

画面が切り替わる。

G 1 1 「いっつ！」

4 1 6 「じれったいわね貸しなさい！」

◇プレイヤー4 1 6に交代

4 1 6 「さつきから見てりやあ無駄な動きが多いのよ！」

R O 「普段こういうのやらなくて…あ、膝乗る？」

4 1 6 「ガキ扱いすんな！」

S O P M O D 「4 1 6はゲーム上手いの？」

G 1 1 「私程じやない。」

ナレーシヨン『撃つて撃つて撃ちまくれ！』

4 1 6 「行くわよこのクソが！オラ死ね!!はあ!?今の当たつてたでしょ!?このゴミどもが!!」

R O 「口悪つ！」

U M P 9 「口リスキンのせいでなんていうか……」

G 1 1 「小憎たらしくなつて来た小学生みたい。」

S O P M O D 「確かに！」

4 1 6 「あーチクショウ！これクソゲー！」

◇シュー一ティングゲームとしてもまあまあ難しかつた。<

G 1 1 「ええ？」

S O P M O D 「結構鬼畜だね。」

U M P 9 「G 1 1やつてみてよ」

G 1 1 「めんどくさい……」

◇プレイヤーG 1 1に交代

R O 「とかなんとか言いつつゲーム上手ですね。」

4 1 6 「この駄メイド銃とゲーム以外からつきしなのよ。」

U M P 9 「あと何処でも寝れることかな？」

G 1 1 「褒めるかディスるかどつちかにしてくれない?」

A R — 1 5 「何か分かりましたか先輩？」

私『ああ、上手くいけば大捕物だ！』

2人、車で急行。着いた先はマンション

A R — 1 5 『ここですね。ごめんください！カリーナ運送です！』

返事はない。

A R—I 5『……アレ？ ドア開いてるしこの匂いって！』
血の匂いを感じて突入する。

私『あなたは…ヘリアンさん！』

〈真犯人 ヘリアントス〉

5人「ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」

ナレー シヨン「全員 アウト！」

4 1 6 「何回出でくんのよ！ いつたあ！」

S O P M O D「また婚期遠のくよ！ いつつ！」

G 1 1 「痛ーい！」

R O「痛！」

U M P 9「うぐう!!」

ヘリアントス『だつて、だつて仕方ないだろ!! 全部こいつらが悪い
んだ！ 独身仲間に勧められて始めたドールズフロントライン、何故か
U M P 9しか出ない！ 今日から家族だあ？ 独り身の私への当て付け
か!?』

4 1 6 「知らないわよそんな事ｗｗｗｗ

ヘリアントス『それをこのバカは笑いやがったんだあ!!!』

〈第二の被害者 カリーナ〉

G 1 1 「いやソイツ上司の娘ｗｗ

S O P M O D「うわゝやつちやつたねｗｗｗ

A R—I 5「知るかそんな事!!

U M P 9「え？ 強！」

A R—I 5、ヘリアンを確保

A R—I 5『ふう、これで一件落着ですね！ なんか終わつたら安心
してお腹空いちやいました。ラーメンでも食べに行きましょうよ、先
輩の奢りで！』

私『ハハハハハハハハハ』

ナレー シヨン『何笑つてるんだR O、お前が後手に回つたせいで人
が死んでるんだぞ！ お前はタイキックだ！』

5人「?」

ナレーション「R O タイキック！」

4人「ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」

ナレーション「U M P 9 G 1 1 4 1 6 S O P M O D アウト

！」

S O P M O D 「そう言えばR Oの席去年のA R — 1 5の席ｗｗｗｗうぎや！」

R O 「いや待つてください雑過ぎませんか？」

G 1 1 「仕方ないじやん人死んでるし、いつたあい!!」

R O 「ゲームの中の話でしょ!!」

4 1 6 「たかがゲーム、されどゲームよ。痛いつ！」

U M P 9 「見苦しーぞー！いたあい！」

??? 「（無言でポーズを取る）

◇前回に引き続き登場 謎のタイキックボクサー◇

R O 「待つてくださいお願ひです！本当にお願ひしますやめて、辞めてくd あ” あ” あ” あ” あ” ああああ!!!!」

4人「ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」

ナレーション「4 1 6 G 1 1 U M P 9 S O P M O D アウト

！」

最後ノ引出

いよいよ引き出しはSOPMODのもののみとなつた。

416 「最後だしさつさと終わらせたいのに」

G11 「なんで3つも出てくるかな？」

SOPMOD 「とりあえずこれは最後?」

〈謎のスイッチ〉

RO 「時間かかりそうですね。」

UMP9 「じゃあこれから?」

〈1番のロツカーネ鍵〉

G11 「それもまあまあ時間がかりそうじやん。」

SOPMOD 「じゃあやつぱこれから?」

〈レコーダー〉

416 「まあ聞いたら終わりそうだし。」

レコーダーを再生する。

? (男性)『ひ、ひい！や、やめてくれ……話す、全部話すから！』

? (女性)『ふ、もう遅いわ！あなたの仲間が全部話した。もうあなたは用無し。用無しを置いておく場所はないわ！』

? (男性)『ほ、本当にお願いだ！それだけはやめてくれ!!何でもするし何だつてするから!!』

? (女性)『もう遅いわ！あなたはもうこの正規軍尋問部隊から逃げられない、諦めた技術班が叡智を集め作つたこの衝撃ビンタマシーン40ちゃんのビンタを受けなさい!!』

UMP9 「はああああ!!!」

3人「wwwwwwwwwwww」

ナレーション「RO SOPMOD G11 アウト！」

RO 「痛つ！」

SOPMOD 「痛い！」

G11 「うぐう！」

UMP9 「もうやつたじやん！なに衝撃ビンタマシーン 40ちゃんつて！」

416 「……ご愁傷様。」

UMP9 「やめてええええ!!」

SOPMOD 「あー、笑つた笑つた。さて、この鍵からは何かな？」

？」

SOPMOD、1番のロツカーリを開ける。

UMP9 「また大きいなあ……」

G11 「掃除ロツカー？」

SOPMOD 「www」

ナレーション「SOPMOD アウト！」

SOPMOD 「痛い！」

RO 「何が入つて？」

SOPMOD 「いやww これは笑うよwww」

トカレフ（大破）「……」

（非常用懐中電灯 トカレフ）

4人「wwwwwwwww」

ナレーション「全員 アウト！」

SOPMOD 「いつた！」

RO 「ぎゃあ！」

416 「うぐっ！」

G11 「痛ーい！」

UMP9 「いたあ！」

トカレフ（大破）「……」

UMP9 「なんか……掃除ロツカーからボロボロの服つて……なんないじめられてるみたいww」

2人「wwwwwwwww」

ナレーション「416 G11 UMP9 アウト！」

416 「ナイン余計なことを!!」

G11 「いってえ！」

UMP9 「ごめーん！」

トカレフ退場

416 「はあ……はあ……たく。後はそのスイッチだけね。」

SOPMOD 「よーしそれじゃあ! 青春スイッチオン!」

?? 「よつ!……呼ばれて飛び出てジャジャジヤジャーン!」

5人「!」

突如星条旗のタキシードとハットを身につけた M4A1が登場。

M4 「う、うう……ウワアオ! は、ハッピーガールウ……」

△ハッピーガール2世 M4A1△

2人「ｗｗ

416 「これは……」

RO 「笑うに笑えませんね。」

UMP9 「去年私以外ノリノリでやつてだからね。」

前作4話参照

SOPMOD 「あははははははははは!!! 何それM4? 壊れちゃったの? ????」

G11 「あはは! あーっはつはつはつはつ! 何それ! はつづづ!」

M4 「……ツ! ……ツツツツ!!!」

UMP9 「性格わつる!」

416 「自分のこと棚に上げていいも言つたりね。」

RO 「去年皆で嬉々としてやつてたのに……」

M4 「う、うわあああああ!!」

M4 号泣しながら退場。

416 「あちやく」

UMP9 「まあなるよねく」

RO 「仕方ないですよM4の性格なら。うん?」

SOPMOD 「どしたの?」

RO 「いやなんかモニターが…」

? (モニター越し) 「ちよつとM4!」

G11 「あれって廊下の映像?」

UMP9 「みたいだけど…」

△ハッピーガール2世 M4A1△

ST

AR—15

AK—12

AN—9

4<

416 「揃いも揃つて何やつてるのよ!」

A R — 1 5 『あんたが尻込みしてどうすんのよ!』

M 4 『ゞ)、ごめんな……』

A R — 1 5 『ごめんで済むなら警察はいらないのよ!!』

U M P 9 『うわキツツ w w』

4 1 6 『A R — 1 5 ってこんなキャラだっけ?』

G 1 1 『気にしたら負けだよ……』

A N — 9 4 『あ、あの……その辺に』

A R — 1 5 『黙つてろ言いなり女!』

A N — 9 4 『なんですつて! 4人の中で唯一スキンがあるからつて

見下して!』

ガチトーンで喧嘩開始

R O 『うわあ……』

4 1 6 『あれ本気の喧嘩じやない?』

S O P M O D 『まあ、普段からあんまり仲良くないけど……』

A K — 1 2 『あらあらあら、ほら何やってるのよこんな往来のど真ん中で』

M 4 『ど、どうにかしないと……あれです!』

部屋に駆け込んでくるM 4

M 4 『ナイン!』

U M P 9 『わ、私!』

M 4 『そのジャツクダニエルの瓶を!』

U M P 9 『え? これ?』

4 1 6 『それ私のやつ……』

M 4 『ありがとう!』

瓶を受け取り廊下に戻る M 4

M 4 『いい加減にしなさい! えーい!』

A K — 1 2 『があ!』

酒瓶、2人を仲裁していたA K — 1 2 にクリーンヒット

A K — 1 2 、ピクリとも動かなくなる。

A N — 9 4 『え? ……ええ?』

A R — 1 5 『M 4 ……アンタ……』

M 4 『こ、こんなつもりじゃ……』

G 1 1 「何この展開……」

M 4 『こうなつたら、仕方ない！』

M 4 ハットの中から拳銃を取り出す。

7人 『!?!』

突如、画面がブラックアウト。鳴り響く銃声、そして何かを引きずる音。

4 1 6 「いや……はい？」

U M P 9 「何だつたの？」

S O P M O D 「さあ？」

後にこの一件が、メンバーを地獄に落とすことに。

M 1 6 「おい、皆無事か。なんでもさつき発砲事件が起きたらしいから、これから避難を兼ねて我が司令部が誇る最難関訓練を体験するため移動するぞ！」

G 1 1 「ええめんどうくさ……」

4人は移動した新たなる刺客達の元に

鬼ごっこ開始

一同はあるグラウンドに連れてこられた。

M 1 6 「よーし着いたぞ。まずは訓練しやすい格好に着替えてくれ。」

オープニングの時と同じ個室で着替える。

4 1 6 「で、着替えたけど」

R O 「G 1 1だけ違いますね。」

〈G 1 1だけ防弾装備〉

G 1 1 「なんでこんな私だけガチガチなん?」

M 1 6 「ああ、それだけ爆弾だからな。」

5 人 「!」

M 1 6 「因みに一回着けたら自分で外せないからな。」

G 1 1 「嘘……本当に外れない。」

M 1 6 「因みに5時間で爆発するから、万が一の為にあつちの対爆弾用の個室に入つてもらう。」

突如現れた黒い全身タイツガラス張りの個室に連行されるG 1 1

G 1 1 「え待って? いやちょっと離してよ! うわあー!」

M 1 6 「因みにあのケースの外で爆発すると半径25キロが更地になるから。」

5 人 「!」

M 1 6 「解除できるのはあのケースのドアのと同じ鍵だけ。間違つた鍵を使うとG 1 1にお仕置きだから。」

G 1 1 「え?」

4 1 6 「それで爆破したりとかしないの?」

M 1 6 「そこら辺はプロがやるから安心してくれ。さ、この敷地内のどこかにある鍵を探してもらう訳だが、お前ら4人がやるんじや割と直ぐに見つけちゃいそうだから、素人を連れてつてもらう。」

U M P 9 「素人?」

M 1 6 「どうぞ!」

ステージから白煙が上がり

素人???? 「イーヤツホー！」

素人 ペルシカ

R O 「ペ、ペルシカさん！」

S O P M O D 「嘘お……」

4 1 6 「あなた、死ぬつもりですか？」

U M P 9 「てかなんでこんな所に？」

ペルシカ 「いやー、周りからいい加減運動した方がいいって。」

4 1 6 「だからって……」

R O 「こんな所に来なくていいのに」

ペルシカ 「楽しそうだつたから！」

U M P 9 「い、命知らずな……」

M 1 6 「それじやあ皆準備はいいな？ それじやあ、鬼^ごっこスター
トだ！」

ペルシカが出てきたのと同じステージから鬼が出現。鬼^ごっこスター
タート。

布団叩き鬼 「！」

U M P 9 「キタキタキタ！」

4 1 6 「散れ！ 散つて！」

布団叩き鬼、ペルシカをロツクオン。

ペルシカ 「え？ 来るの？ うわー！」

S O P M O D 「あ、捕まつた。」

ペルシカ 「ちよつと待つて優しくしいつたあ！」

4 1 6 「痛そ……」

U M P 9 「洗礼だよ、慣れてもらわないと」

その頃 G 1 1 は

G 1 1 「…………フフツ」

高みの見物。

4 1 6 「大丈夫ですかー？」

ペルシカ 「お、思つたより痛い……」

U M P 9 「色んな意味で去年よりパワーアップしてるね。」

R O 「それじやあ、鍵を探しましょーか。」

アナウンス『訓練開始から10分経過。鬼、増員します。』

グラウンドをR.OとUMP9が、建物の中を残り3人が担当。

ペルシカ「じゃ、私は上の階見てくるね。」

416「どうする?」

SOPMOD「右にも左にも通路あるしね。じゃあ、どちらにしようかな天の神様の言う通り!左!」

416「じゃあいきましょうk「助けてー!!」

2人「?」

ペルシカ「見つかっちゃった!」

416「あいつ鬼連れてきてんじゃない!」

SOPMOD「しまった! 左行き止まりだ!」

ペルシカ「そんな!」

ショベルカー鬼「!」

3人、確保。

R.O「あれって…」

UMP9「なんか10人がかりぐらいで連行されてる……」

416「離せ! 離しなさいこの!」

SOPMOD「待つて待つて! せめて何をするか教えてよ!」

ペルシカ「やめてー!」

R.O「ショベルカーって何やるんでしょう?」

UMP9「比喩でもなんでもなくマジのショベルカー使うみたいだけど…」

カルカノ妹「ウイーンガシャン、ウイーンガシャン。皆轢き殺すぞー。」

〈ショベルカー運転手 カルカノm91／38〉

416「嘘でしょ!? 待つてお仕置きされるのはいいからせめて姉の方にして! 命がいくつあっても足りない!!」

ショベルカー鬼達、416とSOPMODをショベルカーのアームに、ペルシカを地面に固定。

ショベルカー鬼「!」

UMP9「なんか看板掲げてる」

RO 「なになに？ 専門家の指導のもと安全に行つております？」

4 1 6 「こんなもんに専門家もなにもあるか！！」

S O P M O D 「うわあああああ！！動いたあああ！」

ペルシカの周りをめちゃくちゃに動きながらショベルカーダンス！

U M P 9 「おお！」

RO 「迫力ですねー。」

ペルシカ「ツ!!!!」

カルカノ妹「ガツシヤンガシヤン！ 本番いくぞー！」

鬼達が戻つて来てペルシカの前に何やら装置をセット

U M P 9 「何あれ？」

RO 「なんか黒い風船が…」

カルカノ妹「よーし！ 風船割るぞー！」

ペルシカ「え？ 何？ 風船つてn」

風船の下に消えるペルシカ。

ショベルカーがアームで風船を圧迫

風船「パアアアン!!!」

ペルシカ「……」

4 1 6 「し、死ぬかと思った……」

S O P M O D 「目え回るくく」

U M P 9 「おつかれー」

RO 「ん？ 見てください！ 鍵が落ちてます！」

S O P M O D 「ホントだ!!」

4 1 6 「さつき無かつたわよね？」

ペルシカ「て事はさつきの風船の中から？」

U M P 9 「ペルシカさんナイス！ G 1 1 ～！ 鍵持つて来たよ！」

G 1 1 「んー、あんがと。」

すっかりゴロ寝で寛いでるG 1 1

4 1 6 「はいはい。もう休憩は終わり…あれ？」

RO 「どうしました？」

4 1 6 「いや鍵が入んなくて」

ナレーション「G11 お仕置き！」

G 1 1 「ええ!?

(b g m 爆勝宣言)

ペルシカ「な、何!?

U
M
P
9
—なんかすづくやな予感……」

ノルマ

鬼ヘレシヤイツチ・タルトカリ

W
W
W
W

○ 1
1 — 嘴 て し づ

S O H M C D — グルーカリン
U M P 9 「バツクブリーカー?」

5人

つまりまだ地獄は終わらぬ

アナウンス『訓練開始から30分経過。鬼、増員します。』

グラウンドにて

G 1 1への制裁が終わると5人は建物の中を探した。

4 1 6 「A棟とB棟とあるけどどっちに行く?」

UMP9 「じゃあグーパーで決めない?」

結果、A棟(グー) SOPMOD ペルシカ

B棟(パー) 4 1 6、UMP9、RO。

ペルシカ「とりあえず一階から調べるか。」

SOPMOD 「ですねー。」

ペルシカ「ない、ない……ん? この箱は!」

SOPMOD 「なんか見つけました?」

〈謎の球体関節人形〉

ペルシカ「えー、この紙によると……身代わり人形?」

SOPMOD 「て言います?」

ペルシカ「鬼に捕まつた時、これを渡して自分以外のメンバーの名前を言うとそのメンバーがお仕置きされます?」

SOPMOD 「何それ面白い!」

2個あるし1つづつ持ちましようよ!」

ペルシカ「いいねいいね! 誰にやる?」

SOPMOD 「4 1 6!」

ペルシカ「私も私も!」

4 1 6 「くつしゅん!」

UMP9 「4 1 6 風邪?」

4 1 6 「違う……ゴミでも入つたかな?」

RO 「それより鍵探ししよう。」

グズグズしてたら鬼が増えますから」

掃除ロツカーを開けるRO

???鬼「!」

中から鬼出現!

RO 「しまった!」

4 1 6 「なんて書いてある?」

UMP9 「ピエロ。」

ピエロ鬼 「！」

ピエロ鬼、ROの顔に何かを塗つていく。

RO (ピエロメイク済み) 「……」

ピエロ鬼 「！」 (サムズアップ)

UMP9 「うわあ……。」

416 「それ落ちるの？」

RO 「わかんない。」

416 「まあ、その…元気だしな？」

RO 「はい……。」

一階の調査を終え、一度集まる一同。

416 「そつちあつたー?!」

SOPMOD 「なんもなーい！ (大嘘)」

ペルシカ 「てかROその顔どうしたの？」

RO 「ピエロ鬼に捕まつて……」

ペルシカ 「ピエロ？ つて来た！」

スリッパ鬼 「！」

ハリセン鬼 「！」

RO 「走つて走つて！」

スリッパ鬼 「！」

UMP9 「痛い！」

ハリセン鬼 「！」

RO 「あ、SOPMOD捕まつた。」

SOPMOD 「416、416！ (小声)」

ハリセン鬼 「！」

身代わりを受け取つた鬼、416を口ツクオン。

416 「はあ!? なんでこつちに痛つ！」

UMP9 「な、何が!？」

RO 「完璧にSOPMODだと思つたのに。」

416 「おかしいでしょ！ アンタなんかした!？」

SOPMOD 「何にも？ 鬼も416な気分だつただけじやない

?」

416 「何よ416な気分つて！」

UMP9 「兎に角早く建物戻ろうよ。また鬼が増える時間だよ！」
二階の探索開始。

416 「納得いかない！」

RO 「まあまあ落ち着いて。」

UMP9 「気にはなるけど一応TVに流れるものだから撮れ高的な
話もあるつてことじや」

416 「あんたがビンタされる以上に面白い絵なんてそう無いけど
？」

UMP9 「確かにそうだけどそれはもう終わつたから！」

RO (完全に油断してますね……)

見計つた様に鬼が出現

風船鬼 「！」

416 「来た来た来た！」

RO 「早く走つて！」

UMP9 「え？ 嘘！」

完全に油断していたナインをロックオン。

UMP9 「待つて待つて何つけてるの!?」

ナイン、背中に無数の黒い風船をつけられる。

416 「うわ、これは……」

RO 「来ないで下さい鬼が来ます。」

UMP9 「ちょっと待つてよ！ 2人とも！

ねえ待つてよ！ ねえつてば！」

外に出る2人。SOPMODとペルシカは先に来ていた。

SOPMOD 「あれ？ 416にRO？」

ペルシカ 「なんであんなに急いでつてあ……」

風船をつけられたナインが登場。

SOPMOD 「なんかすごいボリューミーなのつけてる……」

ペルシカ 「高さはざつと5メートル、どこから見ても気付くね。」

UMP9 「待つてよ！ なんで皆逃げるんだよ！」

S O P M O D 「うるさい疫病神！」

ペルシカ「こつちくるな！」

U M P 9 「酷いよ皆つてあ！」

ゴボウ鬼「！」

ゴボウ鬼、ナインをロツクオン。

4 1 6 「あのゴボウで叩かれるの？」

S O P M O D 「痛そ！」

R O 「もの凄い必死に逃げてますね。」

ペルシカ「あ、風で転んだ。」

ナイン、風船の中に隠れる。

4 1 6 「アイツ鬼をタツクルで転ばしてるわよ。」

R O 「どんだけつかまりたく無いんですかww」

風船の紐が絡まつて酷い事になつてるU M P 9

G 1 1 「うわあwww 何アレwwwwww」

牢屋の中1人余裕のG 1 1

ペルシカ「あ、もう3人来た。」

ハリセン鬼「！」

ゴムパツチン鬼「！」

タイキック鬼「！」

4 1 6 「流石に4人がかりには捕まつたわね。」

U M P 9 「お願ひ！お願いまつ痛つ!!」

容赦なくハリセンとゴムパツチンが振るわれる。

U M P 9 「う、うう：待つて下さい二連チャンはいぎやあああ!!!」

タイキック、ゴボウと連続で尻に喰らう

4 人「wwwwwwwww」

U M P 9 「もうなんなの！早く終わつてええ!!」

※ここからは尺の都合でダイジエストでお送りします。

クリームパイ鬼「！」

R O 「嘘でしょ。ピエロの上にクリームつてぶふつ！」

顔面にクリームパイをくらうR O

S O P M O D 「あははは！まさしくピエロだ！」

ウルトラハリケーン鬼「！」

椅子に拘束されるSOPMOD

バケモノ鬼「！」

ペルシカ「416、416！（小声）」

身代わり人形を受け取つた鬼。

416をツケオン

捕まえて どんがかりで刑を執行する
J M C 「ダメモノつて何?」

ペルシカ「さあ……」

4
1
6
「
—
—
—
！」

顔をテープで歪められた416が登場

U
M
P
9 「うわあああああバケモノだあ!!」

416 一概に……（怒）ちよごとナイン！」

U M H 9 一 異れ！ 名前で 叫ふなハケモ 今

ジャイアントスイシング鬼「！」

シャイアントスイング鬼 ベレ

「シャイアントアイング兎 ヘレンウイツチ・クルーガー！」
ペルシカ「く、クルーガーさん？ま、待つてよ私生身の！」

ん!!」

SOPMOD 「ターマヤー!!」

襲いくる鬼達。

回を増すことに厳しくなるお仕置き。

UMP9 「い、今まで、何回目?」

R O 「ペルシカさんが29回目

ナインが27回目、私が21回目。

416が17回目で、SOPMODが14回目。」

416 「あんた、数えてて悲しくならない?」

RO 「なりますよそりや……」

SOPMOD 「鍵は見つからないし10分に一回誰かが新しい鬼にやられるし会場は殆ど全部探したし!!!」

UMP9 「いい加減につて来た!」

????鬼「!」

416 「なんて書いてある?」

SOPMOD 「16連撃!」

16連撃鬼、ペルシカをロツクオン。

ペルシカ「つ、捕まつた!」

2人がかりでペルシカを拘束。

ゴボウを持った16人の鬼が現れ

ペルシカ「嘘でしょ待つて待つてやだヤダヤダアアアアア!!!!に、ニヤアアアアアアアアアアアアアアアア!!!!」

休み無く、容赦なくスネにゴボウが振るわれる。

ペルシカ「あ、ああ……」

UMP9 「ペ、ペルシカさーん!」

RO 「あの人もう立てないんじや無い?」

すると突然M16が出現。

M16 「おつかれー。」

416 「何の用よ?」

M16 「いやさ、鍵なんだけど私が持ちっぱなしだつたんだわ。」

UMP9 「はあ!?」

RO 「いや待つてください私達何の為にやつてたんですか!?」

SOPMOD 「もー嘘でしょ!!」

416 「あんたつて奴は!!」

M16 「ま、そうゆう訳だ。戻るぞー。」

5人の戦いはまだ続く。

笑いの刺客達は、次なる矢をつがえていた。

ペルシカ「…………あれ?……もしかして、置いてけぼり? 誰かいなの!? スネが痛くて立てないの!!」

お昼ご飯

5人は待機室に帰還した。

G 1 1 「……うわ、なんかあるよ。」

テーブルにはそれぞれ1つずつ蓋の付いたトレーが置かれている。

U M P 9 「…なんか手紙が…」

R O 「なんて書いてありますか？」

U M P 9 「えー、皆さんに用意したお昼ご飯は鬼ごっこでお仕置きされた回数に応じて豪華さが違います。

お仕置きされてない優秀な人ほどいい料理が出されます。

ちなみに順番は以下の通りです。

一位	M 4	S O P M O D II	二位	H K 4 1 6	三位	R O 6
3 5	四位	U M P 9	五位	G 1 1 (ヘリアン)。P S 引き出しの		

中身はリセットされています。」

4 1 6 「もおお！去年と同じパターン！」

〈地獄の引き出しネタ再び〉

R O 「最悪……」

G 1 1 「嫌だあ！」

S O P M O D 「やつた一位だあ！」

ナレーション「S O P M O D アウト！」

S O P M O D 「痛い！」

U M P 9 「で？誰から行く？」

4 1 6 「そりやG 1 1 からでしょ？」

G 1 1 「ええー？」

R O 「ええー？じゃない！」

U M P 9 「鬼ごっこで1番楽してたのG 1 1 だよ！」

G 1 1 「わかつたよお…え？」

〈五位の昼食 プチトマト一個〉

G 1 1 「これ…だけ？」

U M P 9 「もはや料理じゃないね。」

4 1 6 「うん…ドンマイ。」

RO 「味わつて食べな?」

G11 「ちよつとー」

S O P M O D — じ ゃ あ 次 は U M P 9 ? —

UMP9「私去年も4位で酷いの食べさせられた気がするんだけどうつわ！」

四位の昼食 わいせんの失敗料理

竹に抱く本

丁巳
卷之三

「ジやあ次ムですか。」

井ノ内ノ御辨當箱ガ

4
1
6
「え?
可?」

三位の昼食 エゴール大尉のキヤラ弁

ナレーション「416 G11 RO UMP9 アウト！」

4
1
6
【痛い！】

G11 — うぐつ！」

R.O.—きやあ!

SCFMCD—痛い!

F C —

二二二
ノの顔を激しおかれて食へる

卷之三

二
卷之三

「一位のアノ女が言う?」

「そう言つたつも」

S
C
P
W
C
O
「私のま...」

一位の昼食 海鮮尽くし

S O P M O D 「うわああ〜!! すつごおい!!」

UMP9 「やつぱりするい！」

ナレーション「SOPMOD アウト!」

SOPMOD「いつ！」

みんな揃つていただきます。

G11 プチツ

R.O.
モグモグ

ミツシムツシ

S C F M C D んんんんん♪♪♪♪ モツヰニモツヰニ
J M つ9 「ヂチユヂチユヂチユ ウデエヌヌ!!」

サレリジョン
SCHOOL
G
11
11
R
C
4
11
6

416 「ウサギ」

R
O
「痛
い
！」

G
1
1
「いて！」

SOPMOD 「ややあー。」

お昼ご飯終了。

416 「……誰から行く？」

SOPMOD 「じゃあ私から！オープーン！」

謎のスクラッチカード

UMP9 「それ以外には？」

SOPMOD 「コインが一枚と、この鍵だけ。」

13番の鍵

G11 どつちから行く?

SOPMOD「スクレッヂからかな」

A
B 2つの欄に3つずつスクロールがあるのをA B交互に削って

4 <

SOPMOD「みたい。えつと下は…」

タイキツク

SOPMOD「いやダメでしょ!!」

ナレーション「SOPMOD タイキック、G11 RO UMP

9 416 アウト！」

416 「痛い！」

RO 「いつた！」

G11 「痛ーい！」

UMP9 「いつつ！」

タイキックボクサー 「（無言でポーズ）

△今年も登場。

謎のタイキックボクサー

SOPMOD 「こんな！こんな軽くタイキック決めちやダメでしょ

！

いだあああああ!!!

4人「ww」

ナレーション「G11 RO UMP9 416 アウト！」

416 「うぐつ！」

RO 「痛つ！」

G11 「いつつ！」

UMP9 「うわつ！」

SOPMOD 「う、うう…つ、次のスクラッチは…」

△SOPMOD

416 「これつてもしかして…」

SOPMOD 「……」

△タイキック

4人「ww」

ナレーション「SOPMOD タイキック、G11 RO UMP

9 416 アウト！」

416 「痛い！」

RO 「いつた！」

G11 「痛ーい！」

UMP9 「いつつ！」

SOPMOD 「待つて待つて2回目じゃんんんんんんんん！！！」

416 「アンタ大丈夫？」

G11 「もう辞めといたら？」

SOPMOD 「ま、まだだ！最後の希望は残つてる！」カリカリ

♪RO♪

UMP9 「おお！」

G11 「これは！」

♪タイキック♪

SOPMOD 「よつしやあああ!!!」

3人 「wwwwwwwwwwww」

ナレーション 「416 G11 UMP9 アウト！」

タイ

キック！」

RO 「なんで!!この流れはSOPMODでしょ!?」

416 「ほらほら後がつつかえてるから。」

UMP9 「往生際悪いよ？」

RO 「いや往生際とかそういう問題じやいぎやあああああああああ

!!!!!!」

4人 「ww」

ナレーション 「SOPMOD UMP9 G11 416 アウト

！」

引き出しの奥

続いてSOPMODは14番の鍵を開けた。

SOPMOD「なんかハンドガン入つてた。」

〈ハンドガン〉

416「うわ！ ちょっとこっち向けないでよ！」

UMP9「打たないでよね！」

SOPMOD「ん、でも偽物っぽいし…バーン！」

G11「うわあ！」

〈引き金を引くとなぜかG11の上着が爆発。〉

UMP9「…ふふつ。」

ナレーション「UMP9 アウト！」

UMP9「痛ーい！」

416「次は私？」

RO「お昼の順番なので。」

416「怖いな：なにこれお饅頭？」

UMP9「大福じやない？」

〈謎の大福〉

416「別に食べても何ともないわよ？」

UMP9「てつきりしごれ生肉でも入つてるかと思つたのに。」

G11「ただ引き出しに入つてたつて衛生上どうなの？」

RO「まあ、強いて問題上げるならそこぐらいですか。それ以外には？」

416「とくになにも。」

RO「じゃあ私ですね」

RO、引き出しを開ける。

RO「私の分ありました。」

〈謎の大福×2〉

RO「だれかもう一個食べます？」

G11「じゃおなかすいてるし頂だい。」

仲良く大福を分ける二人。

U M P 9 「他にはないの？」

R O 「えっと……D V Dが」

〈謎のD V D〉

S O P M O D 「そうきたかー！」

U M P 9 「お決まりの来たねー！」

4 1 6 「どうする？後回しでも良いけど。」

R O 「今行きます。あとからは怖いんで」

D V Dをセット。再生が始まる。

ナレーション（T V）『我が、H P—00地区中央司令部の中には厳しい訓練を受けることで人並み外れた力を手に入れたエリート隊員がいる！』

G 1 1 「エリート隊員？」

ナレーション「それが、エゴール大尉だ！」

3 人 「w w w w w w w w w w w w w w w w w w」

ナレーション「4 1 6 G 1 1 U M P 9、アウト！」

4 1 6 「痛ーい！」

G 1 1 「うぐつ！」

U M P 9 「いつた！」

S O P M O D 「あ、R O？」

R O 「…………。

ナレーション『本日はエリート隊員の極秘ミツションをご覧いただこう！』

G 1 1 「いてて…極秘ミツション？」

ナレーション『20分間、サウナで耐え忍ぶ。』

U M P 9 「なにその罰ゲームみたいなの。」

ナレーション『通常サウナの温度は約90度。しかし、このミツシヨンでは110度まで引き上げた方がより効果が増すのだ。』

4 1 6 「効果？」

10分経過。

エゴール（T V）『はあ……はあ……。』

5人 「・・・・・。』

15分経過

エゴール『う、うう……ああ！』

R O 「そんなんなるぐらいならさつさと出ろイライラする！」

4人「wwwwwwwwwwwwwww」

※笑いましたが今しばらくお付き合いください。

ナレーション『なぜ彼がここまでするのか？

それは、エリートのDNAを採取するため。』

UMP9「DNAってあの血の中とかにある？」

SOPMOD「多分。」

ナレーション『エゴール大尉から噴き出した大量の汗、それを吸水性の高いタオルで丁寧にふき取り、

絞つて集める。』

416「きつたな！」

R O 「馬鹿じやないですか!?」

ナレーション『火にかけ余分な雑味を取り除き、エリート塩が完成。それを惜しげもなく使った一品が、当司令部名物、エゴール大福である。』

UMP9「あの大福つてww！あの塩田福つてwwwwww!!!」

R O 「うつそでしょおおおおおお!!!!」

416「気持ち悪っ!!!」

G11「丸々1個食べちゃつたよおおおお!!!!」

SOPMOD「wwwwwwwwwwww!!!!」

ナレーション「416 SOPMOD G11 UMP9 アウト！」

お仕置き執行、しかしエゴール塩のインパクトが強すぎて全く応えず。

416「気持ち悪！気持ち悪!!!」

R O 「あ、あんなやつの、あんなやつの!!」

G11「私、おなかすいて結構がつかり食べちゃつたんだけど!!!」

UMP9「一生取れないよ？エゴール塩。」

416「ヴエエエエエエエエエ!!!」

G 1 1 「いやだあああああ!!!」
R O 「だれか殺して!!お願ひだから!!」

お色直し

U
M
P
9
「次私？」

416 「もう後アンタとG11だけよ。」

私はこのスイッチだけみたい

卷之三

「一回三ヶ、二回二ヶ、三回一ヶ」

天井から氷がアリが飛来！

U
M
P
9

4人

最後に空のバケツがナイン

U
M
F
9

卷之三

卷之三

「やあ！」

G 1 1

4
1
6
「痛！」

U
M
P
9
「...ブフツ」

M
1
6 一おーおー、
すふ濡れじやないかナイン

二二七

中華書局影印
明人詩選

「う泊直ノゾニシ。每三更則。」

R
O
「フフ」

ナレーション「SOPMOD RO アウト!」

R0 「痛い！」

SOPMOD - いじつ!

416 「で、どうする？ナインが来るまでにG11の終わらせちゃう？」

G11 「そうしよつか？ん？なにこれ？」

〈プレゼントの箱〉

SOPMOD 「なにそれ？」

G11 「なんか入つてる……ケーキだ！蝶でできた偽物だけど。」

RO 「チョコの所になんか書いてありますね。」

416 「ハッピーバースデイG11？」

G11 「別に今日誕生日じゃないんだけど？」

SOPMOD 「まあいいじゃん！せつかくマツチも一緒に入つてるし！」

ケーキの蠟燭に点火。電気を消す。

SOPMOD 「ハッピーバースデートウユー」

RO 「ハツピバースデートウユー」

416 「ハッピーバースデイアG11～」

4人 「お誕生日、おめでとー！」

拍手が響く。

G11 「うん、よくわかんないけどありがと……あれ一人多くない？」

416 「は？何言つてるのよ。」

RO 「そんなことないですよ。」

SOPMOD 「もー流石にこんないたずらには引っかかるないよ。」

くぐもった声「ねー。」

3人 「!」

G11 「ほら言つた！なんかいる！確実にいるよ！」

416 「だれか電気！電気付けて！」

電気がつくそこにいたのは

UMP9 「やつほー」

〈燃え上が一れ！の方のガンダムのヘルメット十下着いつちよのUMP

P9〉

416 「アンタまたすごいカツコにさせられたわね。」

RO「それ、大丈夫なんですか？いろんな意味で。」

SOPMOD「また思い切つたこととしたね。」

G11「えっと、じゃあ次行こうか。」

UMP9「ねえ！みんな人が恥を忍んでやつてるのに反応薄くない？」

G11「ん？なんかカギとDVD出て来た。」

416「どつち行く？」

G11「んー、DVDかな。」

RO「本気ですか？タイキック宣言とか知りたくもない物とか写つてる魔のアイテムですよ？」

G11「だつたら尚更さつさと片づけたいよ。お願ひ。」

SOPMOD「ロジャー！」

DVDを再生。

416「これってこの部屋のカメラ映像？」

RO「日付が正しければ昨日の夜らしいですけど」

G11「あ、誰か入ってきた。」

SOPMOD「キャリコにサンダージyan。」

^M950A Thunder

キャリコ『へー雰囲気あんじやん。』

サンダー『やめましようよ、こんなのが良くないです。』

キャリコ『なに？まさかビビってるの？』

サンダー『そうじやなくて、これ不法侵入ですよね？』

キャリコ『ええ、けど例の噂の動く人形の犯人さえとつちめればおつりがくるわ。』

室内を物色しだす二人。

何か小さい動くものがキャリコに向かっていく。

キャリコ『ん？なんか音がうつ！』

キャリコ、飛び掛かられた瞬間、倒れる。

サンダー『ヒツ！キヤ、キャリコ？』

なんですか急に黙つて……悪戯なら怒りますよ？』

カメラが暗転

サンダー『え？ 口ツカ一が勝手にって！ う、嘘でしょ？ い、いや！
ああああああああああああああああああああああああああああ
えーーーーッツツツツ!!』

映像終了。

5人「…………」

G11「ね、ねえ？ ま、まさかと思うけどこの、この鍵つてサンダー
の言つてたロツカ一のカギなんじや」

416「（）愁傷様G11。骨は拾うわ。」

G11「冗談でも言わないでよ！」

いやいやながらもロツカ一調べていくG11。

G11「違う・・違う・・ここだ。」

扉を開ける。中から布をかぶせた籠が出て来た。

G11「なにこれえ？」

SOPMOD「口クなものじやないだろうけど」

???「出してくれえええ・・俺をこの狭い箱から出してくれえ！」

5人「!」

RO「G11、ほら」

G11「ほらつて！ ヤダよなんで私が！」

SOPMOD「だつてG11のカギで開けたやつだし。」

G11「もーなんでえ！」

机に置いて布を外す。

現れたのは

???「うわあああああ！」

（チャツ○一のような服のUMP9の人形が入っていた。）

???「この世に蘇った、俺は呪いの人形！」

ナイン人形「今から地獄を見せてやる！ アイムナイン！ はつはつ
はつは！」

ナレーション「UMP9 アウト！」

UMP9「はあ！ なんでなんでなんで！！？」

416「アイムナインだから？」

UMP9「そんば、そんな理由で！？ いつたああああああ！！」

パンツいつちよの防御力の無いナインの尻に容赦なくケツバツト
が振るわれる。

ナレーション
—
4
1
6
G
1
1
S
O
P
M
O
D
R
O
アウト!』

416 一あーつつ!

G
1
1
—
い
つ
た
！

SOPMOD

R.O.—痛い

U M P 一 はあ…………はあ…………待つてやばいよこれどうすりやいいの

「人形遣い電原刃へば、ハジや。」

UMP9 「そ、そうだ！こんな檻ぐらい戦術人形の腕力なら！」

ナイン人形一七なみに銚格子は電流が流れる仕掛けがある！あ

4人

サレリショソ 「全員アウト!」

U
M
P
9

4
1
6
「痛、
！」
!!!

G
1
1

S
O
P
M
O
D
「あ」

RO 「うあ！」

U
M
P
9
〔
〕

?

ナイン人形「お前らにヒントをやろう。鍵の暗証番号はG11にま

つわるある数字だ。」

SOPMOD「ある数字？」

「誕生日じゃないですか？」

416 「そつか！そのためのあのケー キか！」

UMP9 「そつかだつたら早速！」

早速番号を合わせるナイン。

ナイン人形「ばーか！人形の方じやなくて銃の方だよ！アツハツ

ハツハ！」

UMP9「はあああ!!ふざけんなこの糞人形おおお!!」

SOPMOD「wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

RO「……ぶつふ！」

UMP9「笑い事じやねえええ!!」

416「wwwwwwwwwwwwwwww」

G11「wwwwwwwwwwwwww」

ナレーション「全員 アウト！」

UMP9「うううああああああああああああああ!!!!」

416「いっつ！」

G11「えだーい！」

SOPMOD「うぎやあ！」

RO「ツツツ!!」

UMP9「く、くつそが！だ、誰か武器の方のG11の開発日を知つてる人は……」

SOPMOD「そうじやなくて設計日かもよ？」

416「生産日つてこともあるわね。」

RO「どれにしろ知つてる人は？」

誰も手を上げない。

UMP9「嘘でしょ!?待つて待つてだとしたら私このままでる人は……」

ナイン人形「惨めだな！あつはつはつはつは！」

UMP9「お前は黙れ！頼むから黙つててくれお願ひだから！」

ナレーション「UMP9 アウト！」

UMP9「違う私じやない！わたしじやああああああああ!!!!」

416「うわお尻もう真赤。」

G11「さすがに同情するね」

UMP9「じゃあ助けてよ！この地獄をどうにかしてくれよ！」

RO「・・・一個、試したいことがあるんですけどいいですか？」

UMP9「なに？この際何でもいいけど？」

RO「カギに0711つていれてみてくれませんか？」

U M P 9 「開いた！」

4 1 6 「え？ 嘘！」

S O P M O D 「すごいじゃんR O！どうしてわかつたの!?」

R O 「もし誕生日ケーキがひとつだけで、武器の方のG 1 1にも人形の方のG 1 1にも共通して数字とすればそれぐらいしか思いつかなかつたので。」

U M P 9 「1 1は分かるけど0 7つてどつから來た？」

R O 「Gはアルファベットの7番目なので。」

U M P 9 「なんだよそれフザケンナああああ!!」

締めはやつぱりこれだろう

極限まで疲労が高まる中、遂に最後にイベントがやつて來た。

M 1 6 「お前らーこれから最後に重大な報告があるから体育館に集合だ！」

4 1 6 「体育館？」

G 1 1 「まだなんか有つたつけ？」

R O 「粗方出尽くしたと思いますが？」

一同、体育館に移動。

最前列に並ばされ、開始を待つ。

S O P M O D 「最後だし派手なのが来ると良いなあ！」

U M P 9 「派手なのって何さ？」

S P A S 1 2 「えー皆さんお集まりですね？私は警備責任者のS P

A S 1 2です。」

〈警備責任者 S P A S 1 2〉

S P A S 1 2 「今回皆さんに集まつていただいたのは他でもない。

今この中に、正規軍を侮辱した不届き者がいるとの事です！」

G 1 1 「不届き者？」

S P A S 1 2 「その人物はあろう事か、K A D O O A W Aの方のガ
ンダムの被り物を被り、それ以外下着のみという大胆な格好で正規軍
を誹謗中傷しました。

そのとき使われたガンダムの被り物がこれです！」

〈ナインがお色直しでかぶつっていたメット〉

4 人 「w w

U M P 9 「.....」

ナレーション「4 1 6 G 1 1 S O P M O D R O アウト！」

4 1 6 「いつた！」

G 1 1 「うぐつ！」

S O P M O D 「痛い！」

R O 「きやあ！」

U M P 9 「.....」

S P A S 1 2 「そして今回！

お仕置きを実行する為にこれを持つてきました！」
謎の40に似たマシーンが登場。

S P A S 1 2 「衝撃ビンタマシーン40ちゃんです。」

S P A S 1 2 「それではまずは犯人が名乗り出してくれるのを期待してデモンストレーションを行います！あれを！」

〈ナインによく似たダミー人形〉

4 0 ちやん『ガアツデエム！』

ダミー人形の首がビンタマシーンのビンタで回転しながらぶつ飛ぶ！

3人「ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ

4 1 6 「うわあ…………」

U M P 9 「…………」

ナレーション「R O S O P M O D G 1 1 アウト！」

S O P M O D 「痛！」

R O 「痛い！」

G 1 1 「あーっ！」

S P A S 1 2 「それでは犯人探しを「ガアツデエム！」行いますつてえ？」

(B G M C R A S H ↪ 戰慄 ↪)

去年も聞いた事のあるb g m。現れたのは

U M P 4 0 「俺だオラ！エー！」

4人「ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ

ナレーション「G 1 1 R O S O P M O D 4 1 6 アウト！」

4 1 6 「痛ーい！」

G 1 1 「くつ！」

S O P M O D 「いつた！」

R O 「きやあ！」

〈超凄腕尋問官 U M P 4 0 〉

U M P 4 0 「この中で、もしほんの僅かにでも自分ではないかと思

う者は、手を擧げる。」

誰も手をあげない。

UMP40 「そうか、それは残念だ。
ではまず、我々がどうやって犯人を突き止められるかを説明しよ
う。」

我々はメットから採取した毛髪から似顔絵を作成した。
それがこれだ！」

〈ナインそつくりの似顔絵〉

416 「…………ッ！」

G11 「フフツ」

SOPMOD 「ブブツ！…………クツクツク……」

RO 「髪型まで一緒じゃないですか WWW」

UMP9 「…………」

UMP40 「では調べていくぞ。」

尋問官、5人のもとへ。

UMP40 「お前は、違うな。」

416 「…………」

G11 「…………」

UMP40 「お前も、だいぶ違うな。」

RO 「…………」

UMP40 「お前も、違うか。」

SOPMOD 「…………」ワクワク

UMP40 「お前は「違います。」…おま「違います！」…」

4人 「wwwwwwwwwwwwwwwwww」

ナレーション 「RO G11 SOPMOD 416 アウト！」

RO 「ぐう！」

G11 「ぎや！」

SOPMOD 「痛い！」

416 「いつた！」

UMP40 「けど似顔絵とそつくりだぞ？」

UMP9 「他人の空似です！他人！他人ですよ！」

UMP40 「にしては随分必死だな？…………お前だろ？」

UMP9「違いま「いいから来い！」痛い痛いやめて！やめてよお

!

無理やり壇上にあげられるナイン。

待つて！待つてよないじやんこんなのつて無いじやん

J L

卷之三

S P A S 1 2 「はい！」ちらに。」

G 4 1 「わんわんわん！」

UMP40 「警察犬型人形のG41だ。」

警察犬型人形 G41

UMP40——ヘルメットに残った匂いとお前の匂いを比べる。」

○41 一アンアンアン……アンアン ハウハウハウ!』

「——やつはりお前いやねえかあ！」

「いや、やめて。」

五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

利成のジーナ作製

新編類聚

U
M
S
4
D 「ガアツテエム！」

J
M
P
9

4人

V
W